The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	朝鮮総督府『朝鮮語辞典』の書誌学的研究
Author(s)	植田, 晃次
Citation	大阪大学言語文化学. 2013, 22, p. 95-104
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77773
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

朝鮮総督府『朝鮮語辞典』の書誌学的研究*

植田　晃次**

キーワード：朝鮮語辞典、朝鮮総督府、朝鮮語教育史

본고는 조선총독부 "朝鮮語辭典"에 대한 실지조사를 통하여 지금까지 명확하지 않았던 간행 상황을 서지학적으로 고찰한 것이다.

그 결과 네 가지 이본의 유형이 밝혀졌다. 여기서 밝혀진 네 가지 이본을 '기증본', '판매본', '축쇄본 (1928 년)', '축쇄본 (1953 년)' 이라고 부르기로 하였다.

또 중판 상황을 포함한 이본 간의 이동 양상을 밝히고 조선총독부에서 각 도서관에 기증된 상황에 대해서도 그 일부를 제시하였다.

아울러 '축쇄본 (1953 년)' 과 관련하여 1945 년 이전과 이후의 일본에서 이루어진 한국어 교육이 가지는 연속성에 대해서도 언급하였다.

1　はじめに

朝鮮総督府『朝鮮語辞典』は、1911（明治 44）年 4 月、編纂に着手（小田 1920a:1)、1920（大正 9）年 3 月 30 日発行の日本語で朝鮮語を註釈した初の近代的辞典である。

本辞典に関しては、これまで主にその編纂の経緯・成立過程について研究が行われてきた。先行研究としては、ソウル大学奎章閣所蔵史料に依拠した李秉根・矢野謙一などによるものがあり、小倉進平も編纂に関った者の立場から編纂の経緯と内容に簡略な言及を残している（李秉根 1985、矢野 1986、小倉 1964)。

本稿では原物主義[1]に依り、都道府県・政令指定都市立図書館蔵書の調査に基づき[2]、まず、従来必ずしも十分に明らかではなかった本辞典の異本について明らかにする。さらに、本辞典の日本近現代朝鮮語教育史における位置づけについて言及する。

矢野謙一は本辞典の編纂の経緯を「この辞典の編纂経過は現在まで詳らかでない。これは一般に流布した『朝鮮語辞典』が凡例と本文のみから成り、序やあとがきが無く編纂経過が述べられていないためである。ただ大阪屋号書店より発売されたものの中に、

---

* 조선총독부 "朝鮮語辭典"의 서지학적 연구（우에다 고오지 UEDA Kozi)
** 大阪大学言語文化研究科

[1]「資料に関して、影印本やデジタル化されたものを最終的な判断に用いることは極力避け、可能な限り原物を実見した資料に基づいて研究を行う方法」（植田 2012：204)。

[2] 2009 年 1 月 16 日から 2012 年 9 月 6 日に各図書館で現地調査を行った。その他機関蔵資料・個人蔵資料も実見したものは補った場合がある。

『朝鮮語辞典編纂の経過』と題した文章をおさめたものがある。これは小田幹治郎の手になるもので、一九二〇年十二月一日の日付がある。この文章には『朝鮮語辞典』編纂の経過が簡単にしるされている。小田の文章をおさめた辞典は印刷部数が少なかったためか、今では稀覯本となっている。／小田（一九二〇）のほかに編纂経緯を述べたものは小倉（一九四〇）である。小倉進平はこの辞典の編纂に参加しており、実見を数行にまとめたものである。（中略）いずれにせよ、これまでの『朝鮮語辞典』編纂の経緯を記述したものは、小田（一九二〇）を越えることはなかった。」（矢野 1986：184-185）とまとめている[3]。また、小倉進平は「近時その縮刷版が一般に行はれて居る。」（小倉 1964：27）と述べている[4]。

先行研究からは、本辞典には（1）凡例・本文のみのもの、（2）「編纂の経過」が付されたもの、（3）1928 年刊行の縮刷版の 3 種類が存在することがわかる。しかしながら、先行研究の関心の中心は編纂経緯の究明にあり、本稿の筆者が見出した 1953 年刊行の縮刷版を含め、異本などの書誌学的側面の調査・解明が十分に行われているとは言えない。本辞典の復刻版（1974 年）の序で河野六郎は「この辞書には不思議に序文が無く、その編纂の経緯は詳かでない」（河野 1974；1980[2刷]）としており、復刻の際に（2）の存在が承知されていないこともこれを示す証左となる。

2　異本の種類

本辞典の審査委員も務めた小田幹治郎は「（前略）昨年の春印刷が出来て、各方面へ寄贈したのであるが、配本の範囲は朝鮮、内地、台湾、樺太、満洲、青島及外国の主要な官衙、図書館、学校其の他特志の人であつて、部数の関係上十分行渡らない憾がある、そこで総督府では成るべく一般の需要に応じたいといふ趣意で、印刷者に実費に近い廉価で、販売させることにしたが、其増刷が漸く出来て、京城の大阪屋号書店で数日前から売出して居る代価が十円、送料が五十銭といふことである。」（小田 1920b:112）と述べている。

以下、最初に発行され主要な機関等に寄贈されたものを「寄贈本」、一般の需要に応じるため大阪屋号書店に廉価で販売させたものを「販売本」、一般に行われて居ると小倉進平が指摘した「縮刷版」を「縮刷本（1928 年）」と呼ぶこととし、原物主義による調査結果を述べる。また、本稿の筆者が見出した、1953 年発行の縮刷版を「縮刷本（1953

[3]「小田（一九二〇）」は小田（1920a）を指す。李英美（2005:183-187）は自身が「発見」したとする「本辞典編纂の経過」という「名詞は漢字で、助詞はハングルで書かれ」た文書を「小田本人の直筆」と断定した上で挙論している。しかし、内容が対応すると思われる小田（1920a）と対照すれば、漢字の単純な誤読が散見される他、玄櫶と玄檃を誤って同一視したためと見られる頓珍漢な記述等もあり注意を要する。

[4] 三ツ井（2007：90）にも発行年を付した「縮刷版（1928 年）」について言及がある。

年)」、国書刊行会で1974年に復刻したものを「復刻本」と呼ぶこととする。

3　寄贈本

3．1　奥付の記述（奈良本）[5]

大正九年三月二十七日印刷
大正九年三月三十日発行
　　朝　鮮　総　督　府
　　京城　大和商会印刷

3．2　形態と内容[6]

縦261×横186mm。表紙は黄土色に近い茶色、背表紙は焦げ茶色・模様あり（表紙側にも30mm弱続く)。背表紙は、上部に2匹の鹿と見える絵等、その直下に朝鮮語辞典の書名、下部に朝鮮総督府編纂とそれぞれ右横書の金文字であり、最下部には植物をあしらった絵がある。また地の部分にもデザインがある。これについては小田幹治郎が「表紙の背皮の模様は朝鮮を表はす意味で、新羅・高句麗・百済の三国及高麗と朝鮮との適当な模様を採り、其れに伽倻の模様を加へたもので、野守健氏の描写である。背と巻頭の題字は金敦熙氏の揮毫である。」(小田1920a:5）と述べている。

頁立は次の通りである。表1、表2、遊び紙、扉（裏白紙)、凡例（1-3頁、3頁裏白紙)、諺文索引（1-4頁)、漢字画索引（1-15頁、15頁裏白紙)、漢字音索引（1-17頁、17頁裏白紙)、本文（1-983頁、983頁裏白紙)、奥付（裏白紙)、遊び紙、表3、表4

各異本ごとに頁をめくって確認した範囲では、本文791頁頁番号に異同はあるが（3.3参照)、寄贈本から復刻本まですべて凡例から本文までは同一組版と推定される。

3．3　特記事項

奥付に価格は不記載である。ただし、石川本のみ「金拾圓」と押印がある。これが如何なる段階で押印されたかは不明だが、後述の販売本Aと同一価格である。

表2・表3のきき紙・遊び紙に植物がデザインされた薄い青色の用紙が用いられている場合がある（千葉本)。管見の限りの販売本ではすべて同様の用紙が用いられている

---

[5] 角の曲がった長方形の囲み（実質は八角形）あり。以下、奥付は縦書を横書に改め、行間の空白を略した他は可能な限り原物の形態を反映させた。以下、所蔵図書館の都道府県・政令指定都市名に「本」を附して当該蔵書を示す場合がある。

[6] 製本が脆弱なためしばしば表紙等が改装されている。大きさ（縦横の正確な長さ）は資料により数mmの差異があるが、大きさ以外の記述も含め、ここでは改装されていないと見られるもののうち奈良本に依った。

が[7]、寄贈本では原装と見られるものでも千葉本以外は白紙が用いられている。

なお、本稿調査対象の範囲で本文791頁の頁番号に以下の異同が見られる[8]。当該頁番号「(七九一)」(原文縦書)が、寄贈本では千葉本のみ下の「)」があるものの(原因は不明である)、その他のすべてで「)」を欠き「(七九一」とある。なお、後述の販売本Aでは「)」があり、販売本Bではなし、縮刷本のすべての資料で「)」がある。

台湾大学本(中日韓文参考書開架)には、奥付の後に大和商会の「内訳書」が綴じられている。

3. 4　所蔵状況

函館市/中央(登録番号:1112849581)、岩手(1101869335)、秋田(112293394)、福島(302291000)、山形(100603351)、新潟(0010002406820)、石川(000846204)、富山市(山田文庫、100826928)、千葉/中央(9103254702)、東京/中央(1126044891)、横浜(0001121626)、静岡(0002664712)、三重(111194130)、京都(1103047690)、大阪/中央(1511257006)、堺(118905256)、奈良(1511214146)、和歌山(310122759)、島根(912120982)、山口(002726693)、愛媛(5101369903)、長崎(1111803058)、鹿児島(0111575726)、台湾大学(特蔵資料区、0012939、Ref/803.234/4720)、台湾大学(中日韓文参考書開架、0012939、803.2/4220/、特蔵資料区本と同一登録番号・異請求記号)

4　販売本

4. 1　奥付の記述

販売本には、奥付に関して、同一発行日で下記(1)～(5)のような点が異なる2種類のものが存在していることが明らかになった。これを「販売本A」・「販売本B」と呼び区別することとする。(1)活字と次の(2)～(5)で組版が異なる。(2)販売本Aには定価の記載があり、販売本Bにはない。(3)「電話本局」と「電話」の異同。(4)販売本Bには販売本Aにはない波線が朝鮮総督府と印刷の間・発兌と特約売捌の間の2箇所にある。(5)販売本Aには電話本局の下に2つの番号を束ねる記号がある。

4. 1. 1　販売本A(沖縄本)

大正九年十二月一日印刷

大正九年十二月五日発行　　定価拾圓

[7] 大阪大学本では表2の左上に縦15×横20mm程度の断片らしきもののみ残存している。

[8] 原物を確認した三重本以外は、2012年10月26日から11月6日にレファレンスにより照会・確認した。なお、台湾大学本については、確認し得ていない。

朝　鮮　総　督　府
京城観水洞百三十五番地
印　刷　所　　大　和　商　会　印　刷　所
京城観水洞百三十五番地
発　行　人　　岩　田　亀　太　郎
京城本町一丁目二十八番地
発　売　元　　大　阪　屋　号　書　店
振替京城二五七三番
電話本局[9] 二〇八六番 六八四番

4. 1. 2　販売本Ｂ（横浜本）

大正九年十二月一日印刷
大正九年十二月五日発行

朝　鮮　総　督　府
……[10]
京城観水洞百三十五番地
印　　刷　　大　和　商　会　印　刷　所
京城観水洞百三十五番地
発　　兌　　岩　田　亀　太　郎
……
京城本町一丁目二十八番地
特約売捌　　大　阪　屋　号　書　店
振替京城二五七三番
電話二〇八六番
電話　六八四番

4. 2　形態と内容[11]

縦 262 × 横 186mm。表紙は明る目の焦げ茶色、沖縄本では背表紙が下部約 110mm を除き失われている。模様あり（表紙側にも 30mm 弱続く）。残存する背表紙は、下部に朝鮮総督府編纂と右横書の金文字であり、最下部には植物をあしらった絵がある。ま

[9] 電話本局の下に２つの番号を束ねる記号あり。
[10] 発兌・特約売捌の間と共に原物は波線。
[11] 横浜本・台湾大学本（中日韓文参考書開架、登録番号なし、803.204/4722/）は改装されているため、改装されていない沖縄本に依った。

た地の部分にもデザインがある。

頁立は寄贈本と異なり、本文と奥付の間に「朝鮮語辞典編纂の経過」（小田幹治郎、1-5頁、5頁裏白紙、大正9年12月1日付）が加わっている。

4. 3　特記事項

既述の通り、巻末には「朝鮮語辞典編纂の経過」が附され、きき紙と遊び紙に植物がデザインされた薄い青色の用紙が用いられている。なお、大阪大学本には「朝鮮語辞典編纂の経過」が付され、販売本と見られるが、奥付の内容・形態は寄贈本と同一である。表紙や活版印刷であることから、複製本の類ではないとみられるものの、実態が不明なものである。

4. 4　所蔵状況

沖縄（1004191514）、台湾大学（中日韓文参考書開架、登録番号なし、803.204/4722/）（以上販売本A）、横浜（0001121600）（以上販売本B）、大阪大学（16200353163）（上述）

5　縮刷本（1928年）

5. 1　奥付の記述（福岡本）[12]

昭和三年七月一日印刷
昭和三年七月五日発行　　【定価金六圓也】
　　朝　鮮　総　督　府
　京 城 府 蓬 莱 町
　　朝鮮印刷株式会社印刷

5. 2　形態と内容[13]

縦194×横127 mm。表紙は深緑、全体にシワ状の模様あり。原装もしくは原装に薄緑の紙を貼ってあると見られる。背表紙は寄贈本・販売本同様の焦げ茶色・模様あり（表紙側にも30mm弱続く）、デザインなども寄贈本・販売本に準じている。

頁立は寄贈本と同一だが本文791頁の頁番号は「)」がなく、寄贈本に「)」を加刷・縮刷、販売本A・Bから小田の文章を除去、Bなら「)」も加刷との推測が可能である。

---

[12] 角の曲がった長方形の囲み（実質は八角形）あり。ただし、寄贈本では四隅は直線であるが、縮刷本（1928年）では四隅は囲みの内にカーブして入り込んでいる。なお、3版（高知本）では奥付の囲みは八角形ではなく四角形になっている。
[13] 大きさは資料により数mmの差異がある。ここでは福岡本に依った。

5. 3　特記事項

発行日が1932年9月15日の再版（東京／多摩本、横浜本）、1939年10月25日の3版（高知本）まで少なくとも確認できる。

表紙の色は再版では紺（横浜本、東京／多摩本）、3版では明るい青（高知本）である。背表紙は3版（高知本）では「朝鮮語辞典」と「朝鮮総督府編纂」の間と表紙側まで続いている部分に模様が見られずデザインが簡略化されている。

背表紙部分のデザインを背とした箱が残っている（再版・個人蔵）。色は茶色で箱のノド＝本をノドから箱に入れた場合の背の部分も包んではめ込む形になっている。

定価は再版・3版では4円と初版より安価になっている。

奥付の記述が3版では、朝鮮総督府の上に著作者、朝鮮印刷株式会社の上に印刷者、右に京城府蓬莱町三丁目六十二番地、左に右代表者　小杉謹八、その左に縦線に次いで京城府蓬莱町三丁目六十二番地／発売所　朝鮮印刷株式会社／振替貯金口座京城四〇番とあり詳しくなっている。

5. 4　所蔵状況

福岡（1101004343）、石川（000845677）（以上初版）、東京／多摩（1114111875）、横浜（2012788056）（以上再版）、高知（1100519139）（以上3版）

6　縮刷本（1953年）

6. 1　奥付の記述（大阪大学本）[14]

昭和二十八年八月一日印刷
昭和二十八年八月十日発行　【非売品】
　　発行者　朝鮮語研究会
　　東京都世田ケ谷区松原町二ノ六七〇番地
　　印刷発行者　快　　青　　社
　　電話松沢（32）二九六六番
　　振替東京二〇七八四番

6. 2　形態と内容[15]

縦182×横126 mm。表紙はくすんだ小豆色、軟らかい精装。背表紙は表紙同様のくすんだ小豆色、デザインは寄贈本・販売本に準じているが、朝鮮総督府編纂の文字はな

[14] 長方形の囲みあり。
[15] 大阪大学本に依った。

い他、朝鮮語辞典と下部の絵の間に模様が見られずデザインが簡略化されている。

頁立は寄贈本と同一である。

6. 3　特記事項

1928年7月5日発行（のいずれかの版次）の影印本と見られる。

非売品であることから、何らかの機関などで内部発行のような形で用いられたのではないかと推測される。発行者の朝鮮語研究会は、奥付の快青社の住所から見て、相場清（1886-1970年）の関与の可能性があるかもしれない[16]。相場は熊本県派遣留学生出身で、「戦前」は朝鮮語を生業とする外務・警察官吏として活動し、「戦後」は朝鮮戦争開戦の頃から外務省・関東管区警察学校等で朝鮮語を教えた人物である[17]。

大阪大学本には箱が残っている。縮刷本（1928年）と類似し、背表紙部分のデザインを背とする。色は茶色で縮刷本（1928年）の箱と異なりノドの部分は開いている。

6. 4　所蔵状況

青森（10201689252、未調査・OPACによる）、大阪大学（16200341127）

7　復刻本（大阪大学本 10300131157）

復刻本については、参考として概略のみ述べる。国書刊行会から1974年12月15日発行で復刻され[18]、1980年6月30日発行で2刷も発行されている。奥付に原本発行日が明記され、また版型、1で見た復刻本の序、本文791頁頁番号下の「)」を欠く点からも底本は寄贈本である。当時の復刻意図は明確ではないが、河野六郎は序で「恐らく同時代の、多少とも朝鮮の文物に興味をもたれた方々の要望」と推測している。

縦265×横182 mm。表紙は黒味がかった紺、模様・デザインはない。背表紙は寄贈本・販売本等と違い、扉にある書名をとり、最下部に国書刊行会と左横書である。

頁立は寄贈本と同一であるが、序（河野六郎）が扉と凡例の間に付されている。

8　総督府からの寄贈状況

小田幹治郎によれば、本辞典の寄贈本は1000部を「必要な方面へ配布」・「各方面に

---

[16] 相場の住所と同一町内で番地も遠くない。壱（1963：43）参照。朝鮮語研究会の他の出版物には『簡易日鮮辞典－日本語から朝鮮語え』（渡辺晴夫 編、快青社・朝鮮語研究会、1957年）がある。ただし、その奥付では東京都新宿区の住所が記されている。また、大久保正一『保健衛生学』の1963・1964・1966・1967年発行のいずれも縮刷本（1953年）と同一住所で刊行されていることを確認した。

[17] 植田（2009）。なお、植田（2011：63）では植田（2009：8）の相場の勤務校が警察大学校から関東管区警察学校と訂正されている。

[18] 大韓民国の複数刊所からの復刻本もあるようだが、正版如何が未確認なため除く。

寄贈」したという（小田 1920a：5、小田 1920b：112)。一部ではあるが、表 1 の通り、寄贈状況が確認できた。表 1 を見る限りでは、刊行年の 10 月から年末に掛けて寄贈されているが、寄贈原則は不明確である。全都道府県立図書館には寄贈されなかった、寄贈印が押印されなかった、寄贈されたものが失われた等の可能性がある。

表 1　『朝鮮語辞典』の朝鮮総督府からの寄贈状況 [19]

年	1920									1921	—
月日	10/4	10/20	10/27	10/28	10/30	11/2	11/13	11/29	12/2	1/1	—
所蔵	長崎	山口	石川	奈良	秋田	和歌山	山形	鹿児島	京都	愛媛	島根

9　「戦前」・「戦後」の朝鮮語教育史の連続性

『朝鮮語辞典』については、「戦後」も暫く不十分ながらも日本語による頼るべき唯一の辞典であったことが先達により述べられている。河野（1974；1980[2刷]）はその一例である。異本調査の結果と併せ見れば、1945 年以降にも寄贈本・販売本・縮刷本（1928 年)、さらには縮刷本（1953 年）という形で本辞典が利用されていた形跡が見出せる。斯様な点は「戦前」・「戦後」の朝鮮語教育の連続性をわずかに示すと指摘できよう。

10　おわりに

本稿では朝鮮総督府『朝鮮語辞典』についての原物主義による調査から、従来不明確であった異本を含めた書誌学的状況を明らかにし、寄贈本・販売本・縮刷本（1928 年)・縮刷本（1953 年）があること、販売本には 2 種類あること、縮刷本（1928 年）は少なくとも 3 版まで出ていること等を明らかにした。また、縮刷本（1953 年）とその刊行者についても示し、「戦前」・「戦後」の朝鮮語教育の連続性の一端についても触れた。さらに、一部ではあるが、朝鮮総督府からの寄贈状況を明らかにした。

今後の課題には、それぞれの異本が実際如何に用いられたかの解明があろう。

参考文献

壱「夏の松原町」『親和』117、日韓親和会、pp.40-43。

植田晃次「日本近現代朝鮮語教育史と相場清」『言語文化研究』35、大阪大学大学院言語文化研究科、2009 年、pp.1-20。

植田晃次『学習書を通してみる近代日本における朝鮮語教育史』植田晃次、2011 年。

植田晃次「明治期朝鮮語学習書・伊藤伊吉『独学韓語大成 全』の書誌学的研究」李東哲・

[19] 和歌山本は受入日、鹿児島本の 11 月は 10 月が書換えられている。京都本の年は推定判読、島根本は日付不記載。なお、岩手本は原貢氏（1926 年 8 月 22 日付、8 は推定判読)、横浜本は有吉市長（1931 年 2 月 19 日付、19 は推定判読）の寄贈本である。

権宇 主編『日本語言文化研究 第二輯 下』延辺大学出版社、2012 年、pp.204-213。
小倉進平『増訂補注朝鮮語学史』刀江書院、1964 年。
小田幹治郎「朝鮮語辞典編纂の経過」1920 年 a、朝鮮総督府『朝鮮語辞典』朝鮮総督府（大阪屋号書店特約売捌）、1920 年、pp.1-5。（小田幹治郎『小田幹治郎遺稿集』小田梢、1931 年にも「朝鮮語辞典の編纂」として再録）
小田幹治郎「朝鮮語辞典の発刊に就て」1920 年 b、小田幹治郎『小田幹治郎遺稿集』小田梢、1931 年、pp.112-121。
河野六郎「序」『朝鮮語辞典』国書刊行会、1974；1980[2刷]年。
三ツ井崇「戦前の辞典」『日本近現代朝鮮語教育史』植田晃次、2007 年、pp.90-91。
矢野謙一「朝鮮総督府編『朝鮮語辞典』編纂の経緯」『韓』104、1986 年、pp.184-222。
李英美『韓国司法制度と梅謙次郎』法政大学出版局、2005 年。
李秉根「朝鮮総督府 編《朝鮮語辞典》の編纂目的とその経緯」『震檀学報』59、震檀学会、1985 年、pp.135-154（朝鮮語論文）。

（本論文は科研費 20320081・23520671 の成果である。各図書館・査読者に感謝します。）